

看護学部看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	13	英語Ⅰ
1年	14	英語Ⅱ
1年	47	基礎看護技術Ⅰ
1年	49	基礎看護技術Ⅱ
1年	52	基礎看護技術Ⅲ
1年	54	基礎看護技術Ⅳ
2年	84	チームアプローチ入門
3年	131	地域・在宅看護学援助論
3年	144	老年看護学実習

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa02					
	●										
科目名	英語 I				単位 認定者	ジョーンズ ドミニク		評価の 方法	試験(筆記)	40	%
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内 課題等	40	%
						授業時間数	15 時間		受講態度	20	%
				授業形態	講義	授業回数	8 回				
授業の概要	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語 I では、これまでの学校教育で学んだ内容を基に、日常生活における場面で使用する語彙や基本表現に触れ、総合的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、医療従事者として必要な語彙を学修する。										
到達目標	1. 医療の現場で使われる基本的な英語表現について理解することができる。 2. 英語の基礎力を身につけ、適切なコミュニケーションを取ることが出来るようになる。										
学修者への期待等	医療英語を学びながら、英語基礎力の復習をしていきます。リスニング練習、ペアワーク、授業内の発表、準備学修を含め、積極的に学ぶ姿勢が求められます。										
回	授業計画					準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	授業のIntroduction、 Unit1 受診の予約、単語 (Body)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
2	Unit2 受診、Registration FormとMedical Questionnaire、単語テスト(1)Body Parts、単語 (症状)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
3	Unit3 ①問診 (現在完了形)、 単語テスト(2)症状、単語 (Department)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
4	Unit3 ②診察 (無生物主語) 単語テスト(3) Department					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
5	Unit4 薬の服用(There is/are～)、単語(薬)、グ ループワーク					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
6	Unit8 術前・術後、単語テスト(4)薬					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
7	Unit9 待合室での会話 (体調や症状を説明する表 現)					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
8	Unit10 清拭 (仮定法過去)、既習範囲のふりかえ り					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める				30	30
アクティブ・ ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード (グループワーク、ペアワーク)										
教科書	『Introduction to Medical English (医療英語入門)』 稲富百合子他著、松柏社										
参考文献	授業内で指示する										
備考	受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。 小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。 授業内課題は提出物20%、小テスト20%で評価し、返却時にフィードバックする。 遅刻は授業開始10分以内とする。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSLa03				
	●									
科目名	英語Ⅱ				単位 認定者	ジョーンズ ドミニク		評価の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	グローバル化が急速に進展する中、国際共通語でもある英語は、日常生活においても多くの場面で必要とされている。そのため、英語によるコミュニケーション能力を養う必要がある。 英語Ⅱでは、英語Ⅰで学んだ内容を基に、グループワークやディスカッション等を行い、実践的な授業を行う。自分の意志や意見を英語で表現し、相手の意図を汲み取ることができることを目標とする。また、医療現場で頻繁に用いられる英語の基本表現についても学修する。									
到達目標	基礎的な英語のListening, Reading, Speaking, Writing を流暢に行うことができる学修スキルを身に付けることが出来る。英語のコミュニケーションを通して自分のことを知り、教員やクラスメートと英語でコミュニケーション出来るようになる。									
学修者への期待等	英語コミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を必ず持参すること。									
回	授業計画					準備学修			事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	Unit 1を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。First Visit 初診 & 問診表 グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
2	Unit 2を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。At the Examination Room 診察室での基本会話 & ノロウイルス グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
3	Unit 3を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Flu Symptoms インフルエンザの症状 & タミフル グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
4	Unit 4を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Pain Problems 痛みへの対処 & BSE（狂牛病）グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
5	Unit 5を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Stomachache 胃痛 & 摂食障害 グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
6	Unit 6を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Abdominal Pain 腹痛 & ホルモン攪乱物質 グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	60
7	Review 1-6					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
8	Unit 7を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Urinalysis 尿検査 & 市販薬 グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
9	Unit 8を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Cholesterol コレステロール & メタボリック症候群 グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
10	Unit 9を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Anemia 貧血 & バランスのとれた食事 グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30
11	Unit 10を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Injury 怪我 & ウォーキングの効能 グループワーク、ディスカッション					事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
12	Unit 11を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Operation Period 手術の準備 & 入院手順 グループワーク、ディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
13	Unit 12を用い、listening, speaking, reading 活動を行う。Alcohol Poisoning アルコール中毒 グループワーク、ディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
14	Unit 13を用い、listening, speaking, reading, writing 活動を行う。Ultrasound Examination 超音波検査 グループワーク、ディスカッション	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	60
15	Review 7-13 発表	事前学修：指定された箇所を予習する 事後学修：学んだ語彙や表現の理解を深める	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）			
教科書	『Medical English Clinic』 Toshiaki Nishihara他著、Cengage Learning			
参考文献	各種英和辞典			
備考	授業は2クラスに分けて実施する。 受講者の理解度等により順番や重点の置き方を変更する場合がある。 小テスト等のフィードバックはその都度、授業内に行う。 遅刻は授業開始10分以内とする。 授業内課題は提出物35%、小テスト35%で評価し、返却時にフィードバックする。			
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)				

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa04				
			●							
科目名	基礎看護技術Ⅰ				単位認定者	竹田 理恵 二口 尚美		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護実践に必要な共通の看護技術の修得を目指す。具体的には、コミュニケーション、感染防止、安全確保、学習支援などを学び、科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 看護技術に共通する考え方について説明できる。 2. 看護における関係形成・対人技法の基本を理解して、良好なコミュニケーションを図る方法を説明できる。 3. 感染予防のための基本について理解し、演習を通して正しい方法で実施できる。 4. 医療における安全確保の技術を理解し、説明できる。 5. 看護における学習支援について説明できる。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み振り返りができる。									
学修者への期待等	教科書の該当箇所を必ず予習すること。「看護技術とは何か」「看護とは何か」「なぜそうするのか／なぜそうしてはいけないのか（根拠）」など常に考えながら、講義・演習に臨んで欲しい。特に演習では、学内の「医療施設」に入る気持ちで臨んでほしい。さらに、確実に理解・習得して次に学ぶ技術と統合して実践できるよう心掛けてほしい。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	看護技術を学ぶ（看護技術とは何か、看護技術の根拠をなすものとは何か）					事前学修：教科書①序章を読む		30	0	木下 美佐子
2	看護におけるコミュニケーション					事前学修：教科書①第1部、教科書② 第1部2章3を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	竹田 理恵
3	感染防止の技術Ⅰ（基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策、感染管理）					事前学修：教科書②第1部4章を読み配布課題レポートに取り組む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	浜野 圭
4	感染防止の技術の基礎（スタンダードプリコーションの実際）					事後学修：課題に取り組む提出する		0	30	浜野 圭 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
5	感染防止の技術Ⅱ（洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い）					事前学修：教科書②第1部4章を読み配布課題レポートに取り組む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	二口 尚美
6	感染防止の技術の実践（無菌操作・感染性廃棄物の取り扱いの実際）					事後学修：課題レポートに取り組む提出する		0	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
7	安全確保の技術（医療事故防止、針刺し防止策）					事前学修：教科書②第1部3章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	竹田 理恵

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	看護における学習支援	事前学修：教科書① 第1部1章5と6を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	竹田 理恵
アクティブ・ ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ 演習 ）				
教科書	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版				
参考文献	必要時授業内で提示する				
備考	*第2, 3, 5, 7回講義はA・Bの2クラス編成で行う。 *非常勤助手：高栖希美子、浜野圭、江口美知子、末永慶子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。(第4, 6回) *授業内課題は、レポート(10%)、学習カード(10%)、確認テスト(10%)等で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は、看護師として5年以上の実務経験を有し、学生が科学的根拠に基づく看護の実践に必要な基礎的知識について理解を深め、看護技術を修得し看護実践能力の基盤をつくることができるよう、実践的な授業を行います。(竹田)	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa05				
			●							
科目名	基礎看護技術Ⅱ				単位 認定者	竹田 理恵		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		試験(実技)	20 %
						授業時間数	60 時間		授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術の修得を目指す。具体的には、生活環境、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄を整える知識と技術を学ぶ。また、リスクマネジメント・安全確保等の知識と技術についても併せて学修し、科学的根拠に基づく看護の基礎的知識と実践能力を演習を通して身につける。									
到達目標	1. 環境調整に関する看護上の意義を理解し、環境調整に関連した技術を修得する。 2. 活動と休息に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 3. 清潔と衣生活に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 4. 食事に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 5. 排泄に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。									
学修者への期待等	身だしなみを整える、時間やルールを守る、事前・事後学修を主体的に行う、グループメンバーと協力するなど、授業をとおして看護学生として必要な態度を身につけることを期待しています。演習には指定のユニフォーム、シューズ、ナースウォッチ、クリップボード、メモ帳、ヘアゴム（必要時）等 が必要です。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	環境調整：援助の基礎知識				事前学修：教科書② 第1部1章・2章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	佐藤 由記子	
2	環境調整：援助の方法 （ベッドメイキング ベッド周囲の環境整備）						30	30	佐藤 由記子	
3	環境調整の実際「ベッドメイキング① デモンストレーション・実習室ガイダンス」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む		30	30	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖	
4	環境調整の実際「ベッドメイキング② ベッドメイキングの実施方法」：グループワーク				事後学修：事後課題に取り組む		30	0		
5	環境調整の実際「ベッドメイキング③ リネン類の交換、シーツ交換」：グループワーク				事後学修：事後課題に取り組む		0	30		
6	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備① デモンストレーション、基本的な方法」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む		30	0		
7	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備② 事例検討」：グループワーク				事前学修：教科書② 第2部7章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		0	30		
8	活動・休息：基本的活動の援助				事前学修：教科書② 第2部7章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		60	30	佐藤 清湖	
9	活動・休息：睡眠・休息の援助				事前学修：教科書② 第2部8章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		60	30	佐藤 清湖	
10	活動・休息の援助の実際「体位変換・歩行介助」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む		30	0	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子	
11	活動・休息の援助の実際「移乗・移送」：グループワーク				事後学修：事後課題に取り組む		0	30		

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
12	清潔・衣生活：援助の基礎知識	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	60	0	竹田 理恵
13	清潔・衣生活：援助の方法 (手浴 足浴とフットケア 陰部洗浄)		0	30	竹田 理恵
14	清潔・衣生活の援助の実際「足浴とフットケア」： グループワーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む 事後学修：事後課題 に取り組み提出する	30	30	竹田 理恵 佐藤 由記子 二口 尚美 佐藤 清湖
15	清潔・衣生活：病床での衣生活の援助	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 清湖
16	清潔・衣生活の援助の実際「病衣・寝衣の交換」： グループワーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む 事後学修：事後課題 に取り組み提出する	30	30	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
17	清潔・衣生活：援助の方法（口腔ケア）	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 由記子
18	清潔・衣生活：援助の方法 (入浴 シャワー浴 全身清拭)	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 由記子
19	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭① デモン ストレーション・使用物品の使い方」：グループワ ーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む 事後学修：事後課題 に取り組み提出する	30	0	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖
20	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭② 全身清拭 の実施方法」：グループワーク		0	30	
21	清潔・衣生活：援助の方法（洗髪 整容）	事前学修：教科書② 第2部9章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	竹田 理恵
22	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪① デモンスト レーション・使用物品の使い方」：グループワーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む 事後学修：事後課題 に取り組み提出する	30	0	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖
23	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪② 洗髪の実施方 法」：グループワーク		0	30	
24	食事：援助の基礎知識 食事摂取の介助	事前学修：教科書② 第2部5章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	60	0	佐藤 由記子
25	食事：摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助		0	30	佐藤 由記子
26	食事の援助の実際「食事摂取の介助」：グループ ワーク	事前学修：講義で学 修した内容を復習 し、事前課題に取り 組む 事後学修：事後課題 に取り組み提出する	30	30	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖
27	排泄：自然排尿および自然排便の基礎知識	事前学修：教科書② 第2部6章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	60	0	竹田 理恵
28	排泄：自然排尿および自然排便の介助の方法（おむ つによる排泄援助）		0	30	竹田 理恵

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
29	排泄の援助の実際「床上排泄援助」：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組み提出する	30	0	竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 由記子 佐藤 清湖
30	排泄の援助の実際「おむつによる排泄援助」：グループワーク		0	30	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ 演習、グループワーク ）				
教科書	①『ナースィング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースィング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版				
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア				
備考	*第1, 2, 8, 9, 12, 13, 15, 17, 18, 21回講義はA・Bクラス編成で行う。 *非常勤助手：高栖希美子、浜野圭、末永慶子、江口美知子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 14, 16, 19, 20, 22, 23, 26, 29, 30回） *授業内課題は、演習レポート課題（25%）、確認テスト（5%）で評価し、授業内で総括してフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は、看護師として5年以上の実務経験を有し、学生が日常生活援助技術の基礎的知識について理解を深め、科学的根拠に基づく看護実践能力を修得できるよう、実践的な授業を行います。（竹田）	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa06				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者	二口 尚美		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（技術）	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。									
到達目標	1.ヘルスアセスメントに必要なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を理解し、実施できる。 2.看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	解剖生理学知識と五感を活用して授業を展開する。正確・安全・安楽に実施できる技術を修得してほしい。事前課題に取り組んで参加すること。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	ヘルスアセスメント					事前学修：テキストP 事後学修：メルクマールの確認方法		30	30	二口 尚美
2	フィジカルアセスメント バイタルサインの観察とアセスメント					事前学修：呼吸器・循環器の解剖学復習 事後学修：上肢の血管と神経系の走行、器具の使い方（課題用紙あり）		30	60	二口 尚美
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の使い方：実技、グループワーク					事前学修：バイタルサインの正しい測定方法 事後学修：バイタルサイン測定方法の各項目の自己課題実施		30	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループワーク					事前学修：単位の読み方 事後学修：一連のバイタルサイン測定の安全で適切な実施のための根拠と留意点		30	60	
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定：実技、グループワーク					事前学修：経過表読み方 事後学修：安全で円滑なバイタルサイン測定実施のための練習		30	60	
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の技術実施、アセスメント：実技、グループワーク					事前学修：経過表の記載方法 事後学修：適切で安全な実施方法の練習		30	30	
7	計測の実際：グループワーク					事前学修：身体計測の内容目的留意事項 事後学習：身体計測の目的と方法		30	30	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”	事前学修：腹部臓器、感覚器官の解剖生理学復習 事後学修：アセスメントと解剖生理学	30	30	佐藤 清湖
9	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経系”	事前学修：関節・筋、脳神経の解剖生理学 事後学修：アセスメントと解剖生理学	30	30	佐藤 清湖
10	フィジカルアセスメント① 腹部、筋・骨格系、感覚器、神経系：実技、グループワーク	事前学修：腹部、筋力、関節、反射等のアセスメント 事後学修：各視診・聴診・触診方法と評価	30	30	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
11	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”	事前学修：呼吸器の解剖生理学復習 事後学修：アセスメントと解剖生理学	30	30	二口 尚美
12	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“循環器”	事前学修：循環器の解剖生理学復習 心不全 事後学修：アセスメントと解剖生理学	30	30	二口 尚美
13	フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系：実技、グループワーク	事前学修：心不全のフィジカルアセスメント 事後学修：聴診音	30	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
14	心理・社会状態のアセスメント	事前学修：ストレスコーピング、自己知覚等のアセスメント方法 事後学修：事例に応じたヘルスアセスメント	30	30	佐藤 清湖
15	ヘルスアセスメントの実際：グループワーク	事前学修：グループワークへの取り組み課題（課題用紙あり） 事後学修：グループワークの振り返り	30	30	二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ 実技、グループワーク ）				
教科書	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア				
参考文献	『フィジカルアセスメントと画像の図鑑』後藤順一他編、南江堂 『はじめてのフィジカルアセスメント』横山美樹著、メジカルフレンド社 『解剖生理学ワークブック＜2026年版＞』坂井建雄他著、医学書院				
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、浜野圭、末永慶子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3,4,5,6,7,10,13,15回） *基礎看護学実習室のほか、シミュレーションセンターを活用する。 *授業内課題はレポート（10%）、確認テスト（10%）、学習カード（10%）で評価し、授業の中でフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
消化器・血液内科で10年の実務経験と看護師資格を有しており、その経験を活かした実践的な授業を行います。 (二口)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa07				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅳ				単位認定者	佐藤 由記子 佐藤 清湖		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	診療に伴う看護実践に必要な基礎的技術の修得を目指す。具体的には排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術（採血・検体検査）を学ぶ。また、状況設定場面に応じた診療援助技術についての演習を通して実践能力を身につける。									
到達目標	1. 診療の補助技術として排泄援助技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬の技術、症状・生体機能管理技術を理解し、実施できる。 2. 看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはもちろんのこと、人体構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの知識を必要とする科目であり、講義・演習前後の学修が不可欠です。事前・事後課題に取り組むほかに、自己学修・自己練習を行い、知識・技術を身につけてください。効果的な演習とするために、主体的に行動し、グループメンバーと協力しながら取り組みましょう。									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	排泄援助技術 「自然排尿ができない場合・医療上の処置（一時的導尿・持続的導尿）」				事前学修：教科書②第2部6章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	竹田 理恵	
2	排泄援助技術 「自然排便ができない場合・医療上の処置（浣腸・摘便・ストーマケア）」						30	30	竹田 理恵	
3	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（処置）」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む		30	0	竹田 理恵 二口 尚美	
4	排泄援助技術の実際 「持続的導尿（患者の観察）」：グループワーク				事後学修：事後課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む提出する		0	30	佐藤 由記子 佐藤 清湖	
5	呼吸・循環を整える技術 「体温管理の技術、電法、末梢循環促進ケア」				事前学修：教科書②第3部11章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	佐藤 清湖	
6	呼吸・循環を整える技術 「酸素療法、排痰ケア」				事前学修：教科書②第3部10章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	30	佐藤 清湖	
7	呼吸・循環を整える技術の実際 「酸素療法、口腔・鼻腔内吸引」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む提出する		30	30	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子	
8	創傷管理技術 「創傷管理、創傷処置」				事前学修：教科書②第4部12章を読む 事後学修：確認テストに取り組む		30	0	佐藤 由記子	
9	創傷管理技術 「褥瘡予防」						30	30	佐藤 由記子	
10	創傷管理技術の実際 「創傷の観察と創処置」：グループワーク				事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む		30	0	佐藤 由記子 二口 尚美	
11	創傷管理技術の実際 「体圧分散、体位変換、包帯法」：グループワーク				事後学修：事後課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組む提出する		0	30	竹田 理恵 佐藤 清湖	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
12	与薬の技術 「与薬の基礎知識、経口与薬」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	0	佐藤 由記子
13	与薬の技術 「吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬」		30	30	佐藤 由記子
14	与薬の技術 「注射の基礎知識／針刺し防止策」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 清湖
15	注射の準備の実際 「注射針と注射筒の取り扱い」：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組み提出する	30	0	佐藤 清湖 二口 尚美
16	注射の準備の実際 「薬液の取り扱い」：グループワーク		0	30	竹田 理恵 佐藤 由記子
17	与薬の技術 「注射の実施法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射）」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 清湖
18	筋肉内注射の実際：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組み提出する	30	0	佐藤 清湖 二口 尚美
19	筋肉内注射の実際（患者の観察）：グループワーク		0	30	竹田 理恵 佐藤 由記子
20	与薬の技術 「静脈内注射（ワンショット、点滴静脈内注射）」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	佐藤 由記子
21	点滴静脈内注射の実際：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組み提出する	30	0	佐藤 由記子 二口 尚美
22	点滴静脈内注射の実際（患者の観察）：グループワーク		0	30	竹田 理恵 佐藤 清湖
23	与薬の技術 「中心静脈カテーテル留置の管理、輸血管理」	事前学修：教科書② 第4部13章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	二口 尚美
24	症状・生体機能管理技術 「血液検査（静脈血採血、動脈血採血、血糖測定）」	事前学修：教科書② 第4部14章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	30	二口 尚美
25	静脈血採血の実際：グループワーク	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組み提出する	30	0	二口 尚美 竹田 理恵
26	静脈血採血の実際（検体の取り扱い、患者の観察）：グループワーク		0	30	佐藤 由記子 佐藤 清湖
27	症状・生体機能管理技術 「検体検査（尿・便・喀痰検査）、生体情報のモニタリング（心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター）」	事前学修：教科書② 第4部14章を読む 事後学修：確認テストに取り組む	30	0	二口 尚美
28	診察・検査・処置における技術 「診察の介助、検査・処置の介助」		0	30	二口 尚美

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
29	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際1：グループワーク、ディスカッション	事前学修：講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む 事後学修：事後課題に取り組み提出する	30	30	佐藤 由記子 佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵
30	状況設定場面に応じた診療援助技術（排泄、酸素療法、与薬、検査等）の実際2：プレゼンテーション、ディスカッション		0	30	
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、演習、ディスカッション、プレゼンテーション）				
教科書	①『ナースング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版				
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア				
備考	*非常勤助手：高栖希美子、浜野圭、末永慶子 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 7, 10, 11, 15, 16, 18, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30回） *授業内課題は、確認テスト（15%）、演習レポート課題（25%）で評価し、次回授業時等にフィードバックする。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
担当教員は、看護師資格を有し、臨床の看護師としての5年以上の実務経験を活かして学生が診療援助技術を理解し、技術を修得できるよう、実践的な視点を踏まえて指導します。（佐藤清）	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSFc05				
		●	●		●					
科目名	チームアプローチ入門				単位 認定者	高橋 由美 外里 富佐江		評価の方法	授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	各種医療専門職の協働により患者中心の医療を提供する、チーム医療の概念、チーム医療に参加する専門職の役割、職種間の相互理解の必要性などを学ぶ。特に、看護師、理学療法士、作業療法士の業務や役割と、チーム医療の重要性についての理解を深める。患者中心の医療提供のための、多職種連携の実践につながる基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. チーム医療とは何かを説明できる 2. チーム医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割を説明できる 3. 自身の職種の専門性を説明でき、他職種とどのように連携を図る必要があるか理解する									
学修者への期待等	本科目は、看護師、理学療法士、作業療法士を目指す学生が、多職種連携について共に学び合う貴重な機会となります。自身の専門性に加え、他職種の専門性に関する準備学修を充分行い主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	チーム医療・患者中心の医療とは				事前学修:教科書 第1章 (p1-6) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江	
2	チーム医療におけるコミュニケーション				事前学修:教科書 第1章 (p7-17) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江	
3	理学療法士の役割・専門性について				事前学修:教科書 第1章 (p21～38) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30		
4	作業療法士の役割・専門性について				事前学修:教科書第3章 (p103～119) を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	外里 富佐江	
5	看護師の役割・専門性について				事前学修:教科書3章A～Fを読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	高橋 由美	
6	チーム医療の実際①:看護師からの視点				事前学修:ユニパにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30	高橋 由美	
7	チーム医療の実際②:理学療法士からの視点				事前学修:ユニパにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する		30	30		

回	授業計画	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	チーム医療の実際③：作業療法士からの視点	事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江
9	チーム医療の実際④：病院	事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	
10	チーム医療の実際⑤：在宅、地域医療	事前学修:ユニバにアップした資料を読んでおくこと 事後学修:学習した内容について課題を提示する	30	30	外里 富佐江
11	事例検討 [1] 事例提示	事前・事後学修:これまでの授業を十分振り返り、復習して臨む	30	30	高橋 由美 外里 富佐江
12	事例検討 [2] グループワーク		30	30	高橋 由美 外里 富佐江
13	事例検討 [3] 発表準備		30	30	高橋 由美 外里 富佐江
14	事例検討 [4] 発表1	事前学修:グループワーク・発表内容を振り返る 事後学修:グループワーク・発表からの学びについてレポート提出	30	30	高橋 由美 外里 富佐江
15	事例検討 [5] 発表2・まとめ		30	60	高橋 由美 外里 富佐江
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（ グループワーク、発表 ）				
教科書	『医療福祉をつなぐ関連職種連携 講義と実習にもとづく学習のすべて』北島政樹編、南江堂				
参考文献	『はじめてのIP 連携を学びはじめる人のためのIP入門』大嶋伸雄著、協同医書出版社 『リハベシク コミュニケーション論・他職種連携論』内山靖他編、医歯薬出版株式会社 『看護師のための多職種連携 攻略本』中山祐次郎監、CBR出版				
備考	・授業内課題は発表70%、他レポート等30%で評価し、適宜フィードバックします。 ・第1～6回、第11～15回はリハビリテーション学部と合同で実施する予定です。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)					
看護師、理学療法士、作業療法士（病院等に5年以上勤務）として、チーム医療の実務経験を活かし、学生の理解を深められるような授業を展開する。					

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMb03				
		●	●		●					
科目名	地域・在宅看護学援助論				単位認定者	高橋 由美		評価の方法	試験 (筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	60 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	療養の場の移行に伴う看護、ケアマネジメント、多職種と連携した地域での生活・療養を支える看護の原則、在宅ケアを支える制度と社会資源などについて学び、多様な場・状況に応じた看護支援方法など、地域・在宅看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 在宅看護のケアシステムの実際とマネジメントについて説明できる。 2. 在宅看護のケアシステムにおけるチームケアの重要性と多職種との連携について説明できる。 3. 在宅ケアを支える制度と社会資源について説明できる。 4. 在宅療養を支える看護活動について説明できる。 5. 多様な場・状況に応じた看護支援方法について説明できる。									
学修者への期待等	地域・在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護学実習Ⅰの学びを基に、地域・在宅看護活動の基盤となる法制度や看護展開論を学びます。また、あらゆる看護領域の既修の知識・技術が基本となるため、予習復習を充分行い、積極的に学ぶ姿勢で臨みましょう。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員	
1	療養の場の移行に伴う看護				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	高橋 由美	
2	退院支援・退院調整				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：授業内課題レポートを提出する		30	30	高橋 由美	
3	ケアマネジメントと看護				事前学修：教科書①6章1.を予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	高橋 由美	
4	多機関・多職種連携と協働における看護の役割				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：授業内課題レポートを提出する		30	30	高橋 由美	
5	地域・在宅ケアを支える社会制度と社会資源 ①医療保険制度・介護保険制度・高齢者施策				事前学修：教科書①7章4.5.6.を予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	高橋 由美	
6	地域・在宅ケアを支える社会制度と社会資源 ②障害者（児）・難病に関する法制度				事前学修：教科書①7章7.8.9.を予習する 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	高橋 由美	
7	在宅療養を支える看護活動 ①訪問看護ステーション				事前学修：教科書①5章を予習する。 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	東海林 美幸	
8	在宅療養を支える看護活動 ②訪問看護サービスの展開				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	東海林 美幸	
9	在宅療養を支える看護活動 ③訪問看護過程				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	東海林 美幸	
10	在宅療養を支える看護活動 ④訪問看護ステーションの実際				事前学修：UNIPAの資料に目を通しておく 事後学修：学修カードに学びをまとめる		30	30	東海林 美幸	

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
11	在宅看護における危機的管理の視点	事前学修：教科書②6章 1.2を予習する 事後学修：学修カードに 学びをまとめる	30	30	高橋 由美
12	在宅における援助技術 ①生活・医療ケアの原則と療養環境整備	事前学修：UNIPAの資料 に目を通しておく 事後学修：学修カードに 学びをまとめる	30	30	高橋 由美
13	在宅における援助技術 ②食の援助・医療ケア	事前学修：UNIPAの資料 に目を通しておく 事後学修：学修カードに 学びをまとめる	30	30	高橋 由美
14	在宅における援助技術 ③排泄ケア・医療ケア	事前学修：UNIPAの資料 に目を通しておく 事後学修：学修カードに 学びをまとめる	30	30	高橋 由美
15	在宅における援助技術 ④呼吸の援助・医療ケア	事前学修：UNIPAの資料 に目を通しておく 事後学修：授業内課題レ ポートを提出する	30	30	高橋 由美
アクティブ・ ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『ナースিং・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、MCメディカ出版 『ナースিং・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』臺有桂他編、MCメディカ出版				
参考文献	『写真でわかる訪問看護』押川真喜子監、インターメディカ				
備考	授業内課題は、課題レポート（40％）学修カード（20％）により評価し、適宜フィードバックする。 第2回、第15回はグループワークを行う。第15回は担当教員に加え、非常勤助手：江口美知子、赤間美 恵子、小宮怜美が担当する。第12～15回は2クラスにて実施します。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)	
看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護（訪問看護師・ケアマネジャー）の実務経験を活かし、 多様な場・状況に応じた看護支援方法など、実践に必要な基礎的知が身につくように授業を行う。（高橋）	

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj07				
	●	●	●	●	●					
科目名	老年看護学実習				単位認定者	齋藤 美華		評価の方法	認知領域（知識）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3 年	開講時期	通年	単位数	3 単位		精神運動領域（技術）	30 %
						授業時間数 <td>120 時間</td> <td>情意領域（態度）</td> <td>20 %</td>	120 時間		情意領域（態度）	20 %
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	健康段階、発達段階、看護の多様な場と倫理を踏まえ、これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、高齢者の健康の促進、回復、生活の質の維持向上を目指す、老年看護の実際を学ぶ。老年期の対象者のニーズを捉え、保健・医療と福祉の連携についても学修し、老年看護の実践能力を修得する。									
到達目標	1. 対象の状態を理解するために必要な身体的・精神的・社会的変化が理解できる 2. 老年期の対象の多様な生活背景による価値観を尊重し、尊厳と権利を擁護するとともに、援助関係・信頼関係を形成できる 3. 老年期の対象を取り巻く保健医療福祉看護職、関連職種の役割を理解し、保健医療福祉サービスの継続に必要な連携・協働について理解できる 4. 自己の看護実践過程や方法を振り返り、自己の持つ課題、看護実践方法の改善課題を整理し、専門職業人として成長し続ける態度を修得する									
学修者への期待等	老年期にある人々は、人生の最終段階を生きている。生老病死に関わる苦難に直面しながら、統合に向かって生きている人であり、生涯発達する存在である。老年期にある人が自分らしくありのままの自分を受け入れ、生きる意味を見出すことができるよう支援者としての看護の役割を考えてほしい。高齢者一人ひとりとの出会いを大切にしたい。									
授業計画						準備学修		事前学修時間(分)	事後学修時間(分)	
I. 実習期間 3週間 II. 実習施設 病院 介護老人保健施設 III. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションを通して実習目標の全体を把握する。 2) 介護老人保健施設の概要を講義を通して理解する。 2. 病院 1) 1週目： ・患者1名を受け持ち、情報収集・アセスメント・看護上の問題を明確にする。 ・受け持ち患者のケアの見学・実施をする。 ・学生カンファレンスを行い、1日の振り返りと翌日の援助計画の立案をする。 2) 2週目： ・受け持ち患者に必要な看護計画の立案・評価をする。 ・立案した看護計画に沿ったケアの実施・評価・修正をする。 ・学生カンファレンスを行い、1日の振り返りと翌日の援助計画の立案をする。 ・受け持ち患者への退院支援・退院調整の実際を理解する。 ・2週間を通しての学びの発表を行う。 3. 介護老人保健施設 1) 施設では、入所サービスと通所サービスの実際を見学する。 ケアプランを閲覧、入所の目的、入所者・家族の意向、サービス内容を学ぶ。 2) サービス担当者会議、判定会議に参加して、会議の目的・内容、多職種連携の実際を学ぶ。 3) コミュニケーション、ケア見学等を通して、施設での高齢者の生活を知る。 4) 経管栄養法の実実際を見学する。 5) 1週間を通しての学びのテーマカンファレンスを行う。						事前学修：実習開始前に実習要項を十分に読み、参加する。 ＜病棟＞ 1. 受け持ち高齢者を理解するために必要な人体機能と構造、病態・検査・治療・看護について理解する。 2. 受け持ちの高齢者を理解するために必要な加齢に伴う身体的・精神的・社会的特徴を理解する。特に加齢に伴う身体的変化の理解は高齢者を理解上で重要となる。 3. 2年次に学修した老年期の看護過程を振り返り学修して臨む。 4. 受け持ち高齢者に必要な看護技術（バイタルサインの測定、清潔ケア）を学修する。 ＜施設＞ 1. 介護保健施設の特徴と看護師の役割を理解する。 事後学習：病院・施設の学びを整理する。		90	60	
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	『カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術』大塚眞理子編著、医歯薬出版 『系統看護学講座 成人看護学 1～11』（病態治療学Ⅰ～Ⅳの教科書） 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』山田律子他編、医学書院 『手技と事例で学ぶ高齢者のフィジカルアセスメント』角濱春美著他、メディカ出版									
備考	担当：齋藤美華、桑田恵美子、菅原尚美、小倉真紀、 非常勤助手：遠藤理加、高橋静子、佐々木ゆみ子、江口美知子									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして老年看護学の理解を深め、学生が臨床現場に繋げることができるような実践的な授業を行います。(齋藤、桑田、菅原、小倉)